貯蔵設備技術基準適合表（1,000㎏未満のバルク貯槽の場合）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 貯蔵能力・設置場所 | ㎏（貯蔵能力の計算書を添付）　・　□地上　　□埋設 | | | |
| バルク貯槽の規格 | □特定設備検査合格証　　□特定設備基準適合証 | | | |
| 保安物件までの距離 | 第１種：1.5ｍ以上　□有 □無　・　第２種：1.0ｍ以上　□有 □無 | | | |
| 上記で保安物件までの距離が無の場合の措置：□構造壁　　□埋設 | | | |
| 構造壁 | □新たに設置  □建物の外壁が30分加熱試験（日本工業規格A1304）に合格するもの以上 | | |
| 方向 | □１方向　　□２方向 | 当該構造壁の構造等を示した図面等を添付 |
| 下部 | □地盤面に接する |
| 大きさ | □バルク貯槽の縦及び横より１ｍ以上 |
| 開口部 | □無 |
| 附属機器 | 安全弁 | | □規定吹出し量≧所要吹出し量  （吹出し量計算書を添付）  □安全弁元弁を設置 | 各機器が告示で定める基準に適合することを示した成績書、証明書、図面等を添付 |
| 液面計 | | □耐圧部分にガラス又は合成樹脂を使用しない  □ＬＰガスを放出しながら測定しない |
| 過充てん防止装置 | | 耐圧部分　□有　□無 |
| 液取入弁 | | □カップリング用液流出防止装置を取付 |
| ガス取出弁 | | □ガス放出防止器を取付　□緊急遮断弁を取付 |
| 液取出弁 | | □使用する　□使用しない  使用する場合　　□ガス放出防止器を取付  □緊急遮断弁を取付 |
| 均圧弁 | | □有　□無  有の場合　　□均圧弁用カップリングを取付 |
| プロテクター | 地上の場合 | | □ふた付、厚さ1.6㎜以上の日本工業規格G3101 SS400又はこれと同等以上の材料 | プロテクターの形状を示した図面を添付 |
| 埋設の場合 | | □ふた付、厚さ4.5㎜以上の日本工業規格G3101 SS400又はこれと同等以上の材料 |
| 朱書き及び緊急連絡先の表示 | □液化石油ガス又はＬＰガス及び火気厳禁  □緊急連絡先 | | | 図面又は写真を貼付 |
| 腐食防止措置 | 地上の場合 | | 塗装　□一種ケレン　□二種ケレン  □錆止め及び上塗り塗装（塗料及び膜厚　を別添資料に示す） | 告示に定められていない塗料を使用する場合は、同等以上の塗料であることを示す資料を添付 |
| 埋設の場合 | | 塗装　□一種ケレン  □錆止め及び上塗り塗装（塗料及び膜厚　を別添資料に示す）  バルク貯槽とプロテクターの電気的絶縁処理  □絶縁ボルト　□その他（　　　　　　　　）  バルク貯槽とガス取出配管・液取出配管との電気的絶縁処理  □絶縁継手（プロテクター内に取付）  □その他（　　　　　　　　　　　　　　　） |
|

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 腐食防止措置 | | 埋設の場合 | 貯槽室　□有　　□無 | |
| 貯槽室に設置しない場合の電気防食措置  マグネシウムの量　□１本３㎏×４本以上  □30年間有効となる量  （計算書を添付） | マグネシウムの取付状態を埋設図等又は写真で示す |
| 地上設置の基準 | 基礎 | 形状・材質 | □平坦なコンクリート盤　　□その他（　　　　　　　　　　） | |
| 高さ | □地盤面より５㎝以上 | |
| 車両が接触しない措置 | □フェンス　　□ガードレール・ガードパイプ　　□車両進入不可能  □その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | |
| 固定方法 | □支柱又はサドルを基礎にアンカーボルト等で固定 | | |
| 接地 | 接地接続線 | □断面積5.5㎜２以上 | |
| 接地棒 | □直径７mm以上、長さ300㎜以上、銅製 | |
| 安全弁放出管 | 開口部 | 位置　□バルク貯槽の頂部から10㎝以上  方向　□上向き | |
| 雨水防止 | □キャップ取付　　□その他（　　　　　　　　　　　　　　） | |
| 埋設の基準 | 埋設深さ | □バルク貯槽の頂部が30㎝以上地盤面から下（別添埋設図等に示す） | | |
| 車両が乗り入れない措置 | □フェンス　　□ガードレール・ガードパイプ　　□車両進入できない場所  □その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | |
| 地下水による浮き上がりを防止する措置 | □コンクリート板による方法（バルク貯槽を固定するアンカーボルト等の位置を埋設図に示す。コンクリート板の質量計算書を添付）  □その他の方法（解説資料を添付） | | |
| ガス検知用穴あき管 | 本数　□貯槽の周囲10㎝以内に１本以上（埋設図等に示す）  材質　□硬質合成樹脂製  □ステンレススチール製  深さ　□先端をバルク貯槽より深い位置に埋設  開口　□地盤面上に開口、ふたを取付  内径　□20㎜以上  孔　　□直径10㎜以上の孔を10㎝以下の間隔  □直径５㎜以上の孔を５㎝以下の間隔  被覆　□外側・底面を65メッシュ以上100メッシュ以下の合成樹脂製の網で被覆  □外側・底面を65メッシュ以上100メッシュ以下のステンレススチール製の網で被覆  □同仕様の管を隙間0.6㎜以下として設置 | | |
| 標識杭 | □バルク貯槽の水平投影面の四隅（別添埋設図又は写真に示す） | | |
| プロテクターのふた | □厚さ５㎝以上の不燃性の断熱材で裏あて | | |
| 火気 | | □２ｍ以内に無い　　□火気を遮る措置（不燃性隔壁の図面等を添付） | | |
| 常時監視システム | | プロテクター内にガス漏れ検知器の設置　　□要　　□不要  監視場所　名　称：  所在地： | | |
| バルク貯槽と調整器の間で液状のＬＰガスが滞留しにくい措置 | | □単段減圧式調整器をプロテクター内に設置  □二段減圧式一体型調整器をバルク貯槽の直近に設置  □二段減圧式分離型一次側調整器をプロテクター内に設置  □その他（解説資料を添付） | | 調整器の設置位置を図面又は写真で明示 |
|